

研究論文

教員・保育者養成のための 音楽カリキュラムと授業内容の検討

～音楽実技の授業を中心として～

小 林 田鶴子

キーワード：教員・保育士養成 音楽実技 カリキュラム 授業形態

はじめに

教員や保育職を志望する学生に習得させる音楽の内容は、演奏家を目指す音楽とは根本的に違っている。教員や保育職に必要な音楽技能は子どもの状態に対応できる柔軟な能力である。たとえば、ピアノで難曲を弾きこなす力よりも、子どもに直面して歌いかける「弾き歌い」の力や、簡単でもいいので、子どもの状態によって演奏する曲を変えたりできる力の方が必要になってくる。

一方、「音楽技能」というとまず思い浮かぶのが、ピアノの技能である。そのため、「音楽的な技能」イコール「ピアノの技術」という考え方が一般的になっている。

その影響か、大学の「器楽」の授業内容は、ピアノの個人レッスンという形がとられる場合が多い。しかし、初めに述べたように、それは、音楽大学で行われる授業内容である。いまだに多くの教員や保育士養成課程での音楽実技がピアノ個人レッスンを中心としている現状に対して、教育・保育現場に対応した、音楽カリキュラムや、授業内容を考える必要がある。

本稿では、そのような視点から、神戸女子大学文学部教育学科での音楽関係のカリキュラムについて、現状をまとめ、同様の課程を持つ他の大学（筆者が授業を担当していた大学も含む）の音楽授業から、その特徴などを挙げ、音楽カリキュラムや音楽授業内容を考える上での材料とする。また、教員・保育職採用試験の傾向や、本学の学生の音楽能力等に関するアンケート結果より、今後本学での音楽授業やカリキュラムはどのようなものが望ましいのかを考察していく。

なお、音楽関係の授業で、一般教養としての「音楽」があるが、本稿ではそれには触れない。

I 教員・保育者養成のための音楽カリキュラムの現状

1. 小学校教員養成課程の音楽授業の概要

ここでは、小学校教員養成課程の音楽に関する授業概要について、本学と他の2つの大学の例と特徴を掲げる。

1) 本学教育学科小学校コースの音楽授業

(表1) 本学1回生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
器楽 A	選択・通年	2 演習	ピアノと弾き歌いの個人レッスン。(1 人 12 分～20 分) 年 4 回のグレードテストでグレード I から IV までの、どこまで合格したかによる評価。	個人レッスンは 1 コマ 5～6 人
音楽概説	選択・通年	2 講義	音楽理論 (90 分)。2 クラスごとの一斉授業。ペーパーテストと平常点による評価。	80～90 人程度

(表2) 本学2回生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
器楽 B	選択・通年	2 演習	ピアノと弾き歌いの個人レッスン (1 人 12 分～20 分)。器楽 A の続きを行う。 年 4 回のグレードテストで、グレード I から特別グレードのどこまで合格したかによる評価。	個人レッスンは 1 コマ 4～6 人
声楽	選択・通年	2 演習	基礎的な発声から、小学校共通歌唱教材の研究や、アンサンブル、合唱など実際の授業で使える内容を行う (90 分)。 声楽実技とグループ発表による評価。	30 人程度
音楽科教育法	必修・半期	2 講義	小学校音楽科の指導法の習得 (90 分)。模擬授業は 2～3 人が 1 組となり、1 人ずつ約 10 分間担当する。実践力を付けることが目標になっている。 模擬授業、指導案、ペーパーテスト、平常点による評価。	30 人程度

3 回生と 4 回生は音楽に関する授業は無い。

【特徴】

- ・「器楽 A、B」ではグレード制を採っている。また個人レッスンを行っている。
- ・「音楽概説」で音楽理論を半期通して開講。(但し、小・幼・保コース全員が選択するので受講人数は多い。)
- ・声楽を通年で実施。

2) 他大学の教員養成の音楽授業

他大学の例として、本学と同様に小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成している A 大学と小学校教諭を中心に、幼稚園教諭を養成している B 大学の例を示す。

(1) A 大学（小学校教諭以外に幼稚園教諭、保育士を養成）の場合

（表3）A 大学1年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽演習 1	選択必修・ 通年	2 演習	個人・グループレッスンによる、ピアノと弾き歌いの技能習得を中心としている。 クラス人数を半分に分けると共に、1 コマを 45 分ずつに分け、前半にレッスンをした学生は、後半の 45 分はクラス授業を行う。前半にクラス授業をした学生は、後半にレッスンをを行う。(クラス授業とレッスンの交代制) クラス授業の前期は音楽理論、後期は声楽を行う。電子ピアノ 45 台の ML (Music Laboratory) システム ^{注1)} とグランドピアノを備えた音楽室で実施。 年 3 回のピアノと弾き歌いのテストや、声楽の実技試験、音楽理論のペーパーテスト結果・平常点を総合的に評価する。	個人レッスンは45分間で5～6人。 クラス授業は約40人を半分に分けて、約20人ずつで行う。 実技試験は履修学生全員の前で実施。

（表4）A 大学2年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽演習 2	選択必修・ 通年	2 演習	個人・グループレッスンによる、ピアノと弾き歌いの技能習得を中心としている。 「音楽演習1」と同様に、1 コマを 45 分ずつに分け、前半にレッスンをした場合は、後半の 45 分はクラス授業を行う。 クラス授業の前期は器楽合奏、後期は声楽を行う。教室は「音楽演習1」と同じく ML システムが完備する音楽室で実施。 年 3 回のピアノと弾き歌いのテストや、器楽合奏・声楽の実技試験、平常点を総合的に評価する。	個人レッスンは5～6人 クラスは40人

(表5) A 大学3年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽科教育法	必修・通年	2 講義	小学校での音楽の指導法を学ぶ。通年開講なので、前期は音楽教育全般についての講義や、指導案作成など。 後期は1人ずつ模擬授業を行う。電子ピアノ45台のMLシステム音楽室で実施。	30～40人
幼児の音楽（指導法）	選択・半期	2 演習	小学校教諭志望の学生で幼稚園免許も取りたい場合はこの授業を受講。幼児音楽について実践的に学ぶ。	20人程度

4年生の音楽の授業は無い。

「教職実践演習」で総まとめとしての音楽のコマはある。

【特徴】

- ・「音楽演習1・2」は1コマ90分を2つに分けて、グループレッスンとクラス授業をクラスの半分ずつで同時に行っている。クラス授業に音楽理論・声楽・器楽合奏を取り入れている。
- ・音楽科教育法は通年で開講している。
- ・幼児の音楽（指導法）の授業がある。
- ・音楽室のMLシステムを活用している。

(2) B 大学（小学校教諭以外に幼稚園教諭を養成）の音楽授業

(表6) B 大学1年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
初等音楽 1・2	必修 1は前期 2は後期	2 演習	45台の電子ピアノMLシステムの音楽室で、クラス授業。ピアノと弾き歌いの技能習得を中心とし、音楽理論、声楽、器楽合奏の内容も随時取り入れる。 アシスタントティーチャーが入り2人体制の授業。個人レッスンは、授業内には無いが、非常勤による予約制の個人レッスンを実施。レッスン時間は原則的に制限が無く、1～4年までどの学年も予約できる。	1クラス は40人程度

(表7) B 大学2年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽科教育法	必修・半期	2 講義	小学校での音楽の指導法を学ぶ。音楽教育全般についての講義や、指導案作成など。2～3人ずつ模擬授業を行う。 45台のMLシステムの音楽室で実施。	40人程度

3年生は音楽の授業は無いが、個人レッスンの予約は可能。教育実習対策のレッスンも実施している。

4年生は音楽の授業は無いが、個人レッスンの予約は可能。採用試験対策レッスンも実施。

「教職実践演習」で総まとめとしての音楽の内容は2コマある。

【特徴】

- ・クラス授業でアシスタントティーチャーが入っている。
- ・授業外で、予約制の個人レッスン制度がある。

2. 幼稚園教諭・保育士養成音楽授業の概要

本項では、幼稚園教諭・保育士養成課程の音楽に関する授業概要を、本学と他の3つの大学の例やその特徴を掲げる。

1) 本学教育学科幼児教育コースの音楽授業

(表8) 本学1回生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
器楽A	保育士必修 幼稚園選択 ・通年	2 演習	個人レッスンによる、ピアノと弾き歌い、表現(マーチやワルツ等の曲)の技能を修得。年4回のグレードテストでどこまで合格したかによって成績が決められている。 (履修者は小学校コースの学生も一緒)	個人レッスンは1コマ5～6人
音楽概説	幼稚園必修 保育士選択 ・半期	2 講義	音楽理論(90分)。2クラスごとの一斉授業。ペーパーテストと平常点による評価。(小学校コースの授業と合同で行っている)	80～90人程度
保育内容表現1	幼稚園必修 ・半期	2 講義	幼稚園教諭に必要な音楽能力をつける内容であるが、受講人数が多く、講義形態なので、実技は限られている。楽器を使用する時は、10グループに分けたりしている。 ペーパーテスト、グループ実技発表、平常点による評価。	80～90人程度

(表9) 本学2回生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
器楽 B	選択・通年	2 演習	器楽 A の続きを行う。内容は器楽 A と同じ。器楽 B 終了時までにグレード3に合格しなければ、幼稚園実習ができないという内規がある。	個人レッスンは1 コマ4～6 人
声楽	選択・通年	2 演習	基礎的な発声から、幼稚園の歌唱教材の研究や、アンサンブル、合唱など実際の保育現場で使える内容を行う。	30人程度

3 回生は音楽に関する授業は無い。

4 回生は「応用音楽実技」(選択、半期、演習2単位)で伴奏付けなどの現場に必要な技術の補完を行う。

「教職実践演習」で総まとめとしての、音楽のコマはある。(平成28、29年度は1コマ)

【特徴】

- ・小学校コースと同様に「器楽 A・B」では個人レッスンでグレード制を採っている。
- ・「音楽概説」で音楽理論の内容を半期かけて行っている。
- ・選択で、「声楽」が通年で開講している。
- ・4 回生で選択の「応用音楽実技」が開講されている(平成30年度まで)。

2) 他大学の幼児教育関係の音楽授業

他大学の例として、幼児教育専攻で、幼稚園教諭、保育士を養成している大学の例を2校(A大学、C大学)、幼稚園教諭のみを養成している大学の例を1校(B大学)挙げる。

(1) A 大学(小学校教諭以外に幼稚園教諭、保育士を養成)の場合

(表10) A 大学1年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
保育の表現技術1 (音楽)	必修・通年 (1コマを45 分に2分割)	2 演習	個人・グループレッスンによる、ピアノと弾き歌いの技能習得を中心としている。 1コマの前半にレッスンをした場合は、後半の45分はクラス授業を行う。 前期は音楽理論、後期は声楽を行う。クラス授業は電子ピアノ40台のMLシステム音楽室で実施。	個人レッスンは5 ～6人 クラスは40人

(表 11) A 大学 2 年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
保育の表現技術 1 (音楽)	必修・通年 (1 コマを 45 分に 2 分割)	2 演習	個人・グループレッスンによる、ピアノと弾き歌いの技能習得を中心としている。 1 コマの前半にレッスンをした場合は、後半の 45 分はクラス授業を行う。 前期は音楽理論、後期は声楽を行う。クラス授業は電子ピアノ 40 台の ML システム音楽室で実施。	個人レッスンは 5～6 人 クラスは 40 人

(表 12) A 大学 3 年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
保育内容表現 I	必修・半期	1 演習	幼稚園教諭に必要な音楽表現を保育現場に即した形で行う。	30～40 人

(表 13) A 大学 4 年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽演習	選択・通年	2 演習	リトミックやオルフ楽器を使った授業。幼児教育現場に即したワークショップ等を実施。 授業の一環として、月に 1 回「おためしライブ」という公開の採用試験曲などを演奏する時間があり、聞いている学生 (60 人位) も演奏について評価を行う。	30～40 人

「教職実践演習」で総まとめとしての音楽のコマはある。

【特徴】

- ・ 1～4 年生を通して音楽関係の授業がある。
- ・ 小学校教員養成と同様に、「保育の表現技術」では 1 コマを 2 つに分けて、グループレッスンとクラス授業を同時に行っている。
- ・ 4 年生で「おためしライブ」と称する採用試験対策のための公開演奏時間を設けている。

(2) C 大学（幼児保育学科で、幼稚園教諭と保育士を養成している）の音楽授業

（表 14）C 大学 1 年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽Ⅰ	必修・通年 （1 コマを 30分ずつに 3 分割）	2 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い（30 分）。技能レベルを分散したグループによる個人レッスン。各自のレベルに応じた弾き歌い楽曲のレッスン。 ・理論（30 分）。アクティブラーニングによるグループでの学びあい。（読譜に必要な知識全般、長音階） ・ソルフェージュまたは歌唱（30 分）視唱、リズム視唱、リズム打ちなど。または歌唱、月の歌の歌唱練習。 	個人レ ッ ス ン は 5 ～ 6 人 ク ラ ス は 30 人

（表 15）C 大学 2 年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
音楽Ⅱ	選択・通年 （1 コマを 30分ずつに 3 分割）	2 演習	<p>「音楽Ⅰ」の続き。授業形態は「音楽Ⅰ」と同様。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弾き歌い（30 分）。 ・理論（30 分）。アクティブラーニングによるグループでの学びあい。短音階、楽曲形式、移調奏、コード奏、伴奏付、創作表現。 ・ソルフェージュまたは歌唱（30 分）。 ・保育合唱 30 コマ中の 2 コマを使用。保育合唱体験。 ・保育合奏 30 コマ中の 5 コマを使用。保育内容表現で学んだことを基にここでは既存楽曲の合奏体験。 	個人レ ッ ス ン は 5 ～ 6 人 ク ラ ス は 30 人
保育内容 表現Ⅰ	保育士必修 幼稚園選択 ・半期	1 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び身体遊び、表現概論、表現演習、手遊び身体遊びの予習、振り返りシート。 ・平成 28 年度より、「保育内容環境」とのコラボ企画を実施。「環境」で表現の環境づくり（大道具、小道具）、題材選びおよびシナリオづくり、ト書きづくり。 <p>「保育内容表現Ⅰ」で音楽的表現創作、身体的表現創作。情景や雰囲気のための効果音や背景音楽を創作、通し稽古。</p>	30人程度

3年生は音楽に関する科目は無い。

4年生は「保育・教職実践演習」（幼稚園、保育士必修科目）の30コマ中の2コマを音楽表現活動に充てている。

【特徴】

- ・「音楽Ⅰ・Ⅱ」で90分を30分ずつ3つに分けて、弾き歌い、理論、ソルフェージュを行っている。
また、保育合唱や保育合奏も取り入れている。
- ・「保育内容表現Ⅰ」では、「保育内容環境」とのコラボ企画を行っている。

(3) B大学（小学校教諭以外に幼稚園教諭を養成）の場合

（表16）B大学1年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
初等音楽 1・2	選択必修 1は前期 2は後期	2 演習	授業内容は小学校養成課程と同じ。（45台のMLシステム音楽室で、アシスタントティーチャー入りの授業と、授業外の予約制個人レッスン有り。）	小学校と 同じため 40人程度

（表17）B大学2年生の授業

授業科目	区分・開講	単位	授業内容	受講人数
保育内容 （表現Ⅰ）	幼稚園必修 ・通年	2 演習	幼稚園教諭に必要な音楽表現を保育現場に即した形で行う。身体表現や簡易な楽器作り、音楽劇作成など、保育に必要な様々な要素を取り入れた授業を行う。	20人程度

3年生は音楽に関する授業は無い。

4年生は「教職実践演習」で2コマ程度音楽の授業を行う。

【特徴】

- ・「保育内容（表現Ⅰ）」を通年で、少人数で行っている。

Ⅱ. 教員・保育士採用試験対策について

教員、保育士養成課程では、学生が教育保育現場に出た時に必要な力を身につけることが必要だが、採用試験対策を行うことも必要になってくる。いやむしろ、採用試験対策そのものが、教育保育現場で必要な力を身につけることにつながるのである。ここでは、教員、保育士採用試験の現状について概観する。

1. 小学校教員採用試験の音楽実技の現状

次に示す表 17 は 2013 年度、表 18 は 2017 年度小学校教員採用試験の府県別の音楽実技課題を示した表（西日本を中心に抜粋）である。

この表からわかるように、ほとんどの自治体では小学校の歌唱共通教材の弾き歌いが課されている。特に関西圏では、弾き歌いでは無く無伴奏の歌唱が課されており、歌唱力が問われる内容となっている。演奏楽器もピアノだけでなく、広島県のようにオルガンで演奏する場合や奈良県や広島県のようにリコーダーの演奏が必要な自治体もある。

京都市、大阪府、神戸市のように都市圏については音楽実技試験が課されていない場合が多いが、堺市のように、2013 年度は実技試験が無かったが、2017 年度には弾き歌いが課されている自治体もある。しかも課題曲は幼稚園でも使われるものなので、小学校採用試験でも幼稚園で使う曲を練習しておく必要がある。

（表 18）小学校教員採用試験 2013 年度（2012 年実施）音楽実技内容

三 重 県	☆電動式オルガン弾き歌い：「春が来た」。
滋 賀 県	☆ピアノ演奏：バイエル 62, 83, 96, 101 番、ツェルニー 30 番、練習曲 13, 26 番から選択。 ☆弾き歌い：「こいのぼり」「スキーの歌」「子守唄」から当日指定の 1 曲。 ☆初見視唱及びリコーダー演奏
京 都 府	音楽と図工のいずれか選択。 ☆ピアノ演奏：バイエル 52, 73, 88, 100 番から 1 曲選択し、暗譜で演奏。 ☆ピアノ弾き歌い：小学校歌唱教材全 24 曲から各自が選んだ学年の異なる 3 曲中、当日指定の 1 曲。
京 都 市	なし。
大 阪 府	なし
大 阪 市	☆楽器自由演奏：曲目は自由、弾き歌い可。 ☆無伴奏による歌唱：小学校の教科書教材から 1 曲を選択。
堺 市	なし。
兵 庫 県	☆無伴奏による歌唱：「ふるさと」任意の調。
神 戸 市	なし。
奈 良 県	☆無伴奏による歌唱：「虫のこえ」「夕やけこやけ」「さくらさくら」から当日指定の 1 曲。 ☆任意曲演奏：演奏する楽器はピアノ、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカから選択。
和 歌 山 県	☆オルガン演奏：「ふじ山」「虫のこえ」「とんび」「こいのぼり」「おぼろ月夜」「ふるさと」から当日指定の 1 曲。
鳥 取 県	☆弾き歌い：「春の小川」「もみじ」「おぼろ月夜」から当日指定の 1 曲。
島 根 県	☆弾き歌い：「夕やけこやけ」「茶つみ」から 1 曲選択、1 番のみ。
岡 山 県	☆弾き歌い：「春が来た」「夕やけこやけ」「ふじ山」「さくらさくら」「ふるさと」から当日指定の 1 曲、移調可。
広 島 県	☆オルガン演奏：バイエル 51 ～ 103 番から 1 曲選択。 ☆歌唱：前半「さくらさくら」「スキーの歌」から選択、後半「こいのぼり」「われは海の子」から選択。 ☆ソプラノリコーダー演奏：前半「うみ」「かたつむり」から選択、後半「うさぎ」「春がきた」から選択。
山 口 県	☆弾き歌い：「春の小川」「まきばの朝」「ふるさと」から 1 曲選択。 ☆ピアノ演奏：任意の曲。
徳 島 県	☆弾き歌い：「うみ」、調の指定なし。
香 川 県	☆弾き歌い：「茶つみ」「おぼろ月夜」から当日指定の 1 曲、移調可。
愛 媛 県	なし。
高 知 県	☆弾き歌い：「茶つみ」「冬げしき」から当日指定の 1 曲、5 分間。
福 岡 県	☆キーボード弾き歌い：「もみじ」「こいのぼり」「おぼろ月夜」から 1 曲選択。
福 岡 市	☆弾き歌い：「われは海の子」1 番のみ。
北 九 州 市	☆弾き歌い：「こいのぼり」「スキーの歌」「われは海の子」から当日指定の 1 曲、5 分間。
佐 賀 県	☆弾き歌い：「ふるさと」「ふじ山」「まきばの朝」から当日指定の 1 曲。

深見友紀子，小林田鶴子，坂本暁美『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』，音楽之友社，2012 p.9
より抜粋

(表19) 小学校教員採用試験 2017 年度 (2016 年実施) 音楽実技内容

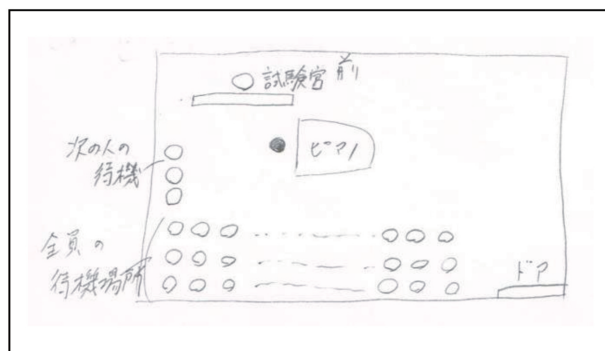
三重県	☆電子ピアノ弾き歌い:「シャボン玉」を前奏から
滋賀県	☆ピアノ演奏: バイエル 49、67、100 番から 1 曲選択 ☆無伴奏歌唱:「もみじ」「こいのぼり」「越天楽今様」から当日指定の 1 曲 ☆ソプラノリコーダー演奏: 当日提示
京都府	音楽と図工のいずれか選択 ☆ピアノ演奏: バイエル 52、73、80、88、100 番から 1 曲選択し、暗譜で演奏 ☆ピアノ弾き歌い: 小学校歌唱教材全 24 曲から各自が選んだ学年の異なる 3 曲中、当日指定の 1 曲
京都市	なし
大阪府	なし
大阪市	☆無伴奏歌唱: 小学校歌唱教材 (4～6 年) から 1 曲選択 ☆器楽演奏: 楽器および曲目は自由
堺市	☆ピアノ弾き歌い:「クラリネットをこわしちゃった」「いぬのおまわりさん」「大きな古時計」から 1 曲選択 (小・幼共通)
兵庫県	☆無伴奏歌唱:「もみじ」、任意の調 ☆器楽演奏:「ふじ山」(キーボード、鍵盤ハーモニカまたはソプラノリコーダーのいずれかを選択)
神戸市	なし
奈良県	☆無伴奏歌唱:「タヤけこやけ」「さくらさくら」「茶つみ」から当日指定の 1 曲 ☆器楽演奏: ピアノ、ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカから選択 任意の曲
和歌山県	☆オルガン演奏:「ふじ山」「春の小川」「とんび」「もみじ」「冬げしき」「ふるさと」から当日指定の 1 曲
鳥取県	☆ピアノ弾き歌い:「ふじ山」「ふるさと」から当日指定の 1 曲 前奏も行う
島根県	なし
岡山県	☆ピアノ弾き歌い:「タヤけこやけ」「ふじ山」「さくらさくら」「とんび」「ふるさと」から当日指定の 1 曲 移調可
広島県・広島市	☆オルガン演奏: バイエル 51～103 番から 1 曲選択 ☆歌唱:「さくらさくら」「スキーの歌」から 1 曲選択 ☆ソプラノリコーダー演奏:「茶つみ」「ふじ山」から 1 曲選択
山口県	☆ピアノ弾き歌い:「ふじ山」「とんび」「われは海の子」から 1 曲選択 ☆器楽演奏: 電子ピアノ、声楽、その他の楽器のいずれかを選択 任意の独奏曲
徳島県	☆ピアノ弾き歌い:「さくらさくら」 調の指定なし
香川県	☆ピアノ弾き歌い:「かたつむり」「ふるさと」から 1 曲選択 移調可
愛媛県	なし
高知県	☆ピアノ弾き歌い:「茶つみ」「冬げしき」から当日指定の 1 曲
福岡県	☆弾き歌い: 小学校歌唱教材 (4～6 年) のうち事前に指定される 3 曲から 1 曲選択
福岡市	☆ピアノ弾き歌い:「おぼろ月夜」
北九州市	☆ピアノ弾き歌い: 小学校歌唱教材 (5・6 年) から当日指定の 1 曲
佐賀県	☆ピアノ弾き歌い:「ふるさと」「冬げしき」「春の小川」から当日指定の 1 曲

深見友紀子, 小林田鶴子, 坂本暁美『この一冊でわかるピアノ実技と楽典』第 7 版, 音楽之友社, 2017 p.9 より抜粋

ピアノの教則本として、古くから使われてきたバイエルが課題となっているのは、この表に示されているのは、滋賀県・京都府・広島県の 3 箇所、この表に無い北海道を含めても全国で 4 箇所だけになる^{注 2)}。

実技試験の実施形態は、音楽室などの教室で、数人の試験官が審査にあたる場合がほとんどであるが、鳥取県の場合は次のような状況である (図 1)。

試験室に、受験生全員が入り、1 人ずつピアノの前に座り、弾き歌いを行った後、もとの席に戻るといものである。これは、小学校のクラスを想定した大勢



(図 1) 鳥取県受験学生の試験教室のメモより

の人前で弾き歌いがきちんとできるかという力を見るものである。

もともと弾き歌いは児童と共に歌い、指導するものであるので、このように大勢の前で試験をする形は今後増えてくるものと考えられる。

2. 幼稚園教諭、保育士の採用試験の現状

幼稚園、保育所の場合は、小学校と違って私立が多いので、一覧にまとめることは難しいが、やはり、幼児の歌の弾き歌いやピアノ演奏が課題となっている。ただし、弾き歌いを行う場合も単に音楽的な能力だけをみるのではなく、保育現場での子どもの対応を考えた課題が出されている。

次に、2017 年度に実施された関西圏の公立保育職の音楽実技試験の例を示す。

まず、「4 歳児以上の子どもが楽しめるような弾き歌いを行う（選曲は自由）」^{注3)} というのがあり、これは 4 歳児以上の幼児の発達を踏まえているかどうかのポイントとなる。選曲については、3 歳児までの簡単な曲ではなく、ストーリー性のある曲など場面の情景を想像できるような曲が望ましい。また、「子どもが楽しめるような」工夫ができるかも試験合格のための重要な要素となっている。

この試験を本学から受けた学生は、『おばけなんてないさ』というストーリー性のある曲を選び、曲に入る前におばけに関するコメントを入れ、子どもに質問する時も 4 歳児が分かり易い選択肢を入れたり、ピアノでおばけがでてきそうな音を表現したりして合格することができた。

ピアノ演奏のみの場合も子どもの歌を課題曲とする場合が多いが、ピアノ曲中心の場合もバイエル程度が課されている。^{注4)} 近畿圏でピアノ曲として難易度の高いところはソナチネの課題が出されているが、その場合も「または、マーチを演奏」という但し書きがあり、試験時にマーチをやって合格した本学の学生もいる。^{注5)}

幼稚園・保育職の場合、実技はピアノや歌だけでなく、音楽を聞いて即興で身体表現することや、スキップやギャロップというステップが課題として出される場合が多くあり、身体表現も重要である。それに加えて、「初見視唱・初見視奏」「ソルフエージュ」が課される場合もあり、楽譜を早く見て、正確に歌ったりピアノを弾いたりする能力も必要である。

音楽実技として課される試験以外に「模擬保育」もあるが、その場合には、「手遊び」を取り入れる必要もある。当然、模擬保育の中で歌う場面も出てくるので、場面に即した弾き歌いができる能力も必要となる。

ここでは、公立の教育・保育職の採用試験を中心に示してきたが、私立の幼稚園、保育所の場合もそのほとんどが子どもの歌の弾き歌いか、ピアノ演奏であるので、公立の内容にあてはまる。

そして、これらの音楽的技能を身につけるには、ピアノだけでなく、歌唱力や、身体表現の力を養うことが必須である。

Ⅲ. 学生の音楽能力や受講の現状

前項で、採用試験の現状を概観してきたが、それに対応する音楽授業の構築に向けて、まず、学生の音楽能力の現状や授業の受講状態をアンケート結果より示す。

1. 「器楽」に関する学生へのアンケートから

アンケートの実施状況は次のようなものである。

対象：2017 年度に入学した本学の 1 回生 163 人

実施日：2017 年 10 月 11 日「保育内容」時（小学校コースも含まれている）

実施方法：質問紙（無記名による選択肢回答）

ピアノや弾き歌いについてのアンケート （ ）クラス

前期の初めに音楽経験アンケートを行いました。前期のレッスン状況等を調査するため、アンケートを行いますので、該当するところを○で囲んで下さい。（無記名の為、前期のアンケートと重なる質問もあります）

I、大学に入学するまでのピアノ（電子ピアノなど他の鍵盤楽器も含む）経験について

A. 習ったことは無い→II の質問へ

B. 習ったことがある→次の質問に回答

・何歳頃から始めましたか。

- ① 3 歳未満 ② 3～5 歳頃 ③ 6 歳(小学校に入ってから)～9 歳位 ④ 10 歳～12 歳（小学校卒業まで）
⑤ 中学に入ってから ⑥ 高校に入ってから

・何年間位習っていましたか（途中で止めて、また始めた場合は習った年数を合計して下さい）

- ① 1 年未満 ② 1～2 年未満 ③ 2 年～3 年未満 ④ 3 年～5 年未満 ⑤ 5 年～10 年未満 ⑥ 10 年以上

II、器楽 A の前期の最終段階でのグレード（G）内容について、合格していれば○、受験して不合格には×を次表に記入して下さい。（器楽 A を取っていない人や未受験者は最後の欄に○を入れて下さい）

グレード 内容	G 1 ピアノ	G 1 弾き歌い	G 2 ピアノ	G 2 弾き歌い	G 3 ピアノ	G 3 弾き歌い	G 4 ピアノ	G 4 弾き歌い	未受験 (履修無)
受験結果									

III、弾き歌いについて

・この大学に入るまで、弾き歌いをやったことがありますか？

- ① やったことは無い
② やったことがある→いつ、どんなところでやりましたか？
()

IV、人前で演奏することは得意ですか？ 苦手ですか？

- ① わりあい得意 ② まあまあ ③ 苦手

V、器楽 A でグルーブレッスン（2 人以上同時にレッスン）をしたことがありますか？（器楽 A 履修者のみ）

- ① 大体やっている ② 時々やっている ④ ごくたまにやる（ほとんどやっていない） ⑤ 全くやっていない

VI、レッスン内容（レベル）について（器楽 A 履修者のみ）

- ① 簡単 ② ちょうど良い ③ 少しレベルが高い ④ 高すぎてついていけない

VII、授業の時間帯（90 分間）で自分の個人レッスン終了後は何をすることが多いですか？（器楽 A 履修者のみ）

- ① 練習室等で練習 ② 他の授業の勉強（レポート書き等） ③ 休憩（食事）や友人と過ごす ④ 帰る
⑤ 他 ()

* 器楽や音楽関係の授業で何か要望があれば書いてください

()

ご協力ありがとうございました。 小林田鶴子

アンケートの対象を「器楽」の授業にしたのは次のような理由による。

- ・教育学科の学生はほぼ全員が履修している。
- ・授業内容がピアノと弾き歌いのレッスンに限られているので、学生の音楽的な能力が分かりやすい。
- ・他の授業は基本的にクラスでの一斉授業の形態をとっているが、「器楽」は個人レッスンなので、授業形態改善の可能性はある。

以下にこの項目各々についての結果を示す。

(なお、設問Ⅱはグレードテストの内規に関わることなので、カリキュラムや授業形態の考察を中心とした今回の分析には、この項目には触れないことにした。)

(1) 音楽経験について（設問Ⅰ）

大学に入るまでピアノ（電子ピアノや電子オルガンなどを含む鍵盤楽器）を習ったことがあるかどうかについての回答は次のようなものである。（グラフ内の数字は%を示す）

ある	ない
72.1	27.9

3割弱の学生が全く習ったことが無いという回答であるが、習ったことのある学生も1～2年未満が2割ほどあり、全体的に初心者に当たるのは、50%位となっている。

また、設問Ⅲの弾き歌いについての経験で、大学に入るまでやったことがあるかどうかについては、次のようになっている。

ある	ない
10.6	89.6

これにより、約9割の学生が弾き歌いの未経験者であることがわかる。

(2) 人前での演奏について（設問Ⅳ）

教育保育現場や試験では人前での演奏が必要であるが、人前での演奏の得手不得手については、次のグラフのように3分の2の学生が苦手であると回答したことがわかる。

↓わりあい得意 3.1

まあまあ	苦手
32.2	63.7

(3) レッソンの形態とレベルについて（設問Ⅴ、Ⅵ）

「器楽」は原則的には個人レッスンだが、1回生については、非常勤の指導教員に可能であればグループレッスンも取り入れるように要請している。個人レッスンに加えてグループレッスンをやってもらっているかを聞いた結果は以下ようになる。

↓ 大体やっている 7.1

		ごくたまにやる 17.4	全くやっていない 69.0
--	--	--------------	---------------

↑ 時々やっている 6.5%

これより、現状ではグループレッスンはあまり行われていないことがわかる。

また、レッスンのレベルについて聞いたところ以下のような回答が得られた。

↓ 簡単 4.6%

	ちょうど良い 70.7	少しレベルが高い 22.8
--	-------------	---------------

高すぎてついていけない 1.9 ↑

この中で、「少しレベルが高い」と「高すぎてついていけない」と感じている学生を合わせると24.7%となり、約4分の1の学生がレッスンのレベルが高いと感じていることがわかる。一方5% 弱の学生は簡単だと思っている。

(4) 個人レッスンが終了後の過ごし方について（設問Ⅶ）

授業時間は90分だが、そのうち個人レッスンの時間は15～30分程度である。レッスンの前はほとんどの学生が練習をしているが、レッスンが終わったあとはどのように過ごしているかを聞いてみた。その結果が以下のようなものである。

他の授業の勉強（レポート書き等） 4.9 ↓

練習室等で練習 44.8		休憩 30.7	帰る 19.6
--------------	--	---------	---------

基本的に授業時間内は授業内容に関わることをやらなければならないが、半数以上の学生がそのような状態では無いことが示された。次のコマに授業が無い学生の多くは「帰る」と回答しており、そうしたクラスだけを取り上げれば、クラス人数の74%にも及んでいる。

2. アンケート結果に見る課題とその対応策

まず、(1)の音楽経験については、約3割の未経験者と、習っていても年数の少ない学生を合わせた約半数の初心者に対するピアノ技術習得の授業が行われなければならないことがわかる。特に未経験

者は、ピアノ習得に大きな影響を及ぼす指の柔軟性が不十分であることなど、幼少の頃からピアノを習っていた学生とは違い、ハンディを抱えていることを念頭に置いた指導がなされなければならない。

また、弾き歌いはほとんどやったことのない学生が多いので、弾き歌いの練習のノウハウを含め、発声など歌唱の能力を養成する必要がある。

(2) に関して、6割以上の学生が人前で演奏することが「苦手」としたのは、これまでピアノを習っていても、人前で演奏するのは年に1度の発表会くらいで、ほとんどそういう場面での経験が少ないことに起因している。自分だけでやればできるのに、誰か周りに人がいると演奏できないというのでは、教員や保育士のように、人のいる場面で演奏することが当たり前状況には対応できない。授業でも人前で演奏する機会を作る必要がある。

(3) のレッスン形態について、ほとんどが個人レッスンであるため、上記に挙げた「人前で演奏する機会」を少なくしている要因にもなっている。これらは、グループレッスンを取り入れることで、対応できるのではないかと考える。

また、レッスンのレベルについて、「簡単」と感じる学生と「レベルが高い」と感じる学生について、個人やグループレッソンのレベル分けや、レベルを混合したグループで「教えあい」を行うアクティブラーニングの導入などが効果的であると思われる。

(5) の個人レッスンの後はどう過ごしているかについては、授業の内容以外のことをしている学生は、授業が90分であることを認識していないと考えられる。特に「帰る」と回答した学生は4限の授業で次のコマがないクラスに多く、やはりこれも、授業時間についての認識が無いために起こっている。

Ⅳ. 教員・保育者養成のための音楽カリキュラムの今後

現在のカリキュラムや音楽授業概要について本学と他大学の例を掲げ、採用試験の音楽実技の動向や、学生の音楽的能力の現状を示してきた。

今後、平成31年度からは新課程に従って、教職関係科目の内容も変化し、全般的に音楽等の実技教科に使える時間数は少なくなる可能性がある。

そうした状況において、カリキュラムを大きく変更させることは難しいため、ここでは授業内容とその実施方法に於ける工夫について考える。特に、本学と他大学の比較から教員・保育士養成課程として本学の今後の音楽授業の望ましい形態を提示する。

なお、前章の採用試験に関しては、教員と保育者対象の内容を別々に示してきたが、本学では、「器楽」「音楽概説」「声楽」の授業は小学校教員・幼稚園教員・保育士希望者が皆一緒に受講しているので、教員と保育者養成に分けることができない。

また、小学校教員養成対象の授業である「音楽科教育法」に於いても、幼稚園で実習を行う学生が受講しているし、幼稚園教員養成対象の「保育内容（表現Ⅰ）」も小学校で実習を行う学生が受講している。

そのため、授業の構成と授業内容の工夫に於いて、今後対応できることを考察していきたい。

1. 授業の構成の工夫

現在本学では「器楽」の授業で個人レッスンだけを行っているが、A 大学、C 大学のように、1 コマを分割して、クラス授業と並行した内容を取り入れる事により、授業科目の削減に対応することができる。

具体的には A 大学のように、90 分を 2 分割し、45 分ずつクラス授業を行う。

本学で、現在 2 回生の選択となっている「声楽」が今後履修科目から無くなる可能性がある。しかし、採用試験の実情で述べたように、歌唱力をつけることは、採用試験対策としても重要であり、声楽を無くすのは大きなデメリットとなる。それを補う方法として、A 大学、C 大学で行われている、クラス授業で、声楽を取り入れる方法がある。

同様に、本学で音楽授業の中にきちんと位置付けられていない器楽合奏もクラス授業の中で実施すれば、合奏の力も付けることができる。加えて、採用試験に課題となるソルフェージュや初見視唱・初見視奏の練習や、伴奏付けの実技も行うことができる。

また、「保育内容表現 I」は、他大学では、演習科目として位置付けられ、1 コマの履修人数も 50 人未満となっているので、今後可能であれば、クラスごとに分けるなどの対応が相応しい。そうすれば、C 大学の授業のように、手遊びや身体遊びができ、採用試験対策としても、効を奏するのではないと思われる。同様に、C 大学での「コラボ企画」にあるように、他の保育内容の授業と連携することによって、音楽劇などの多彩な表現を学生に体験させることもできる。

2. 授業内容や授業環境の工夫

前項でも触れたが、「器楽」の授業を合理的に進めるため、グループレッスン化をする時に、学生の音楽能力を細かくチェックして、レッスンが進めやすいメンバーを揃えることが重要である。その為には、1 回生の場合は、入学前にアンケート等で音楽能力を問い、紙面で判断が難しい場合は、オリエンテーション時に簡単な実技テスト等を行うことが必要となる。また、半分のクラス授業が進めやすいように、前半にクラス授業を受ける学生は初心者を中心にするなどの工夫も考えると良いであろう。2 回生の場合は 1 回生の成績があるので、それを参考にグループ分けを行えば良い。

小学校コースでは、今後「器楽 B」を選択できなくなることが考えられるので、初心者は大学独自で開講する音楽科目を履修することが望ましいが、その場合、履修人数が多くなり、個別対応が難しくなることが考えられる。それに対応するには、他大学で既に実施されているように、音楽室に学生数分の電子ピアノを設置したり、アシスタントティーチャーを導入したりして、初心者の音楽的能力を上げる工夫をすることが必要である。複数台の電子ピアノの設置は、授業だけでなく、練習室としての機能も果たせるので、1 部屋で練習室 40 室分(40 台の場合)の価値を生むことも期待できる。

3. 音楽実技試験の工夫

本学の「器楽」の試験は、前述したようにピアノと弾き歌いのグレードテストが実施されている。その課題曲は、ピアノの場合はバイエル、ブルグミュラー、ソナチネが中心となり、幼児教育コース

は「表現」として、マーチやスキップなどの曲集から選択した曲が追加になる。弾き歌いは、小学校コースは小学校共通教材から、幼児教育コースは子どもの歌から課題曲が決められ、自由曲と共に演奏することになっている。

ピアノの場合、教育・保育実習や採用試験での必要性を考えるとバイエルやソナチネだけでなく、他の課題曲も考える必要がある。弾き歌いの課題曲は採用試験の課題曲にも合致しているが、試験方式が、数人の教員の前で受験するだけなので、多くの人前で演奏する機会を取り入れることが必要である。

また、A 大学にあった「おためしライブ」のように、学生自身を評価者とすることで、演奏者を第三者の視点で見ることができるようになり、適切な自己評価の目を育てるきっかけを作ることができる。これは、他の色々な授業に取り入れたい内容である。

おわりに

教員・保育者養成の音楽は、演奏家養成のそれとは違う、とはじめに述べたが、演奏家も聴取者を意識しなければならないので、本質的には同じであるといえる。ただ、演奏家の演奏は、「聴くことが大前提」になった場面で行われる。しかし、教員や、特に幼児教育の場面では、子どもが聴いたり演奏したりすることが大前提であるとは限らない。そうした時に必要になるのが、子どもへの臨機応変な対応力である。

本稿では、「器楽」の授業形態等を中心に、対策等を述べてきたが、実際そこで培われる音楽的能力についての検証が必要であることは言うまでも無い。

今後、新しいカリキュラムや授業内容に変更した際にも、慎重にその効果の有無について調査していかなければならないと考える。

注釈

注 1) ミュージックラボラトリーシステムは、指導者用楽器（親機）と学生用楽器（子機）をケーブルで接続することにより、子機の情報が親機に集められるようになっており、集団における鍵盤学習を効率的に行なえるシステムである。

注 2) 北海道の課題曲（2017 年度）は、「バイエル 72 ～ 106 番（86,87 除く）から 1 曲選択、弾き歌い：小学校歌唱教材から指定」となっている。

注 3) 2017 年に実施された、西宮市の保育職の音楽実技試験内容。

注 4) 神戸市の教職保育職の音楽実技はバイエル 70 番台～ 10 番台の中の当日 1 曲が指定される。

注 5) 姫路市の教職保育職の音楽実技は「ソナチネから 1 曲、あるいはマーチでも良い」とされている。

参考文献

- (1) 小林田鶴子、伊藤充子、亀山有希、他「教員養成課程における実技教科指導内容の検証－小学校教育現場の卒業生からのフィードバックによる－」、『総合科学研究 第6号』、名古屋女子大学総合科学研究所、平成24年
- (2) 小林田鶴子、伊藤充子、佐地多美、他「教員養成課程における実技教科指導内容の検証(2)－幼児教育現場の卒業生からのフィードバックによる－」、『総合科学研究 第7号』、名古屋女子大学総合科学研究所、平成25年
- (3) 飯泉祐美子、「保育内容表現の授業実践とその考察」、日本音楽教育メディア学会第6回発表資料、平成29年、12p